

熊野の表現

平山郁夫

日本画の巨匠が表した遺産

平山郁夫(1930～2009)が足を運んだ場所を示した地図は、まるで探検家のそれかと思ふうばかりです。仏教の伝来、シルクロードを通しての文化の交流を制作のテーマとし、アジア各地への取材を重ねて、それまでの日本画にはなかった壮大なスケールの表現を成した、生涯に亘る平山のエネルギッシュな活動は、驚くべきものです。

また1960年代から平山が訪れ、描き続けたアジアの各所の多くが、現在ではユネスコの世界遺産に登録されており、この画家の背景にあった、歴史と文化への高い



熊野古道をスケッチする平山郁夫。(1991年4月13日)

独自のものとして高め上げられてきた日本の文化を、これからは外に向けて発信してゆくことが大切だと考え、同時に、その貴い日本の文化が失われつつあることに危機感をもって、新たに「日本の道」をテーマとした制作にとりかかりました。

その端緒として、1990(平成2)年から吉備路を取材して作品とし、続いて翌年から取りくまれたのが熊野路でした。当地を取材した平山は、大陸から伝わった国際的な文化である仏教を受容した日本人が、「熊野詣によって日本の自然から日本文化の原点を感じとり、独自の精神文化を形成してきた」ことを見抜き、このときから早くも「美しい熊野の自然をどのように護り、いかにして子孫に伝えるのか」を課題として考えていました。

「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて10年を迎える今、平山郁夫の芸術とともに、この遺産について改めて考える機会をもちたいと思います。

見識もよく示されています。

晩年の平山は、寄せてくる外来の文化を受け入れ続けながら、

INFORMATION

★特別展：世界遺産登録10周年記念

平山郁夫～熊野路を描く～

会場 / 田辺市立美術館
会期 / 平成27年2月14(土)～3月22日(日)
開館時間 / 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 / 毎週月曜日
主催 / 田辺市立美術館 平山郁夫美術館
観覧料 / 600円(480円) 学生及び18歳未満の方は無料 ※()内は20名様以上の団体割引料金です。

□会期中に平山郁夫美術館の平山助成館長による記念講演会を予定しています。

REPORT

絵画とガラスー日本の画家たちとヴェネチア・ガラス工房との出会い：7月12日(土)～9月23日(火・祝)

記念講演会「絵画とガラスー出会いをプロデュースして」
【日時】7月12日(土)14:00～15:15

今夏開催した特別展「絵画とガラスー日本の画家たちとヴェネチア・ガラス工房との出会い」は、現在一線で活躍している日本の画家たちの絵画作品と、その画家たちがデザインし、ヴェネチアのガラス職人たちが作りあげたガラス作品とによる内容でした。出品した作品はすべて笠間日動美術館の所蔵品で、展覧会の初日に同館の副館長、長谷川智恵子さんにお越しただいて記念講演会を開催しました。

長谷川さんは日動画廊の副社長でもあり、日本の画家たちとヴェネチアのガラス工房との間を結んで、類ないガラス作品の制作をプロデュースした当人です。およそ20年前となる、作品が生まれたときのいきさつを、それぞれの画家の個性や完成にいたるまでの苦心などとともに、ついこの間のことのようにいきいきと話してくれました。

記念演奏会「ルガーノ・フォーチュンズ弦楽四重奏団」
【日時】7月25日(金)19:00～21:00

「絵画とガラス」展の会期中に、エントランスホールを会場にして記念演奏会を開催しました。スイスのルガーノ音楽院大学に学ぶ若者たちが3年前に結成した、ルガーノ・フォーチュンズ弦楽四重奏団による演奏で、展覧会のテーマが日本と西洋の芸術家の交流ということにちなみ、プログラム4曲中の半分を日本人作曲家の作品(須賀田磯太郎、山田耕祐の弦楽四重奏曲)で構成しました。

席に限りがあるために先着順の予約制で催しましたが、定員はすく一杯になり、終演後には多くのご好評の声をいただきました。今年は日本とスイスの国交樹立150年となる年で、今回の演奏会はその記念事業にも認定されました。

演奏会を通じて、展覧会のテーマを拡大してお伝えすることが出来たのではないかと思います。

古川紫明

現在作品を収蔵している作家の中で唯一、古川紫明についてはその経歴が不明のままになっていたのですが、今年の5月に当館が作品を所蔵していることをお知りになったご遺族の方からご連絡をいただいて、お話をきくことができ、その一端が明らかになってきました。以下に概略を記します。

古川紫明の本名は源次郎で、1892(明治25)年に大阪市で生まれたとみられ、1947(昭和22)年に堺市で病没しています。本職は新聞記者で、大阪時事新報社、夕刊大阪、大阪新聞に勤務して美術、写真の評を執筆するかたわら、洋画を描いていました。連載小説の挿絵を描いたり、一時期京都にいた様子もあるのですが、まだ判然としていません。これをきっかけに調査を進めてゆきたいと思います。

(学芸員 三谷 渉)



ガラス作品の誕生にいたるまでのエピソードを、ユーモアを交えながら紹介いただきました。



素晴らしい演奏を聞かせてくれた4人。左から、山下汀楽(Vn)、ゼノ・フゼッティ(Vn)ジュリア・ヴェクスラー(Vla)アレッサンドラ・ドネネリ(Vc)全員がティーンエイジャーです。



古川紫明の三女、和気登美子さんがお越しになり、当館の水彩画作品をご覧いただきました。

谷内庸生×COYO

紙彫刻と映像で現す空間

紙彫刻作家の谷内庸生と映像作家のCOYOは、世代も経験もまったく異なる二人ですが、ともに「森」に深い関心を寄せるアーティストで、「熊野の森」をテーマとする表現を積み重ねています。

谷内庸生は当市の出身で、熊野を、対極にある二つの世界を絶えず内に持ち続けている場所と捉えています。光と闇、といった相反するものが、自分自身の



作品を構想中の谷内庸生さん(写真左)と、モチーフとなる風景を撮影しているCOYOさん。今回は初めてのコラボレーションとなります。

アイデンティティでもあるといい、熊野の森と自身の生とを重ねあわせた制作を行っています。

一方COYOは、東京藝術大学在籍中の2008(平成20)年に、和歌山芸術文化支援協会が主宰したアーティスト・イン・レジデンス、「森のちから」で初めて熊野での制作を体験し、その後も幾度となく熊野を訪れています。熊野の森はいつも限りないリアリティを感じる場所で、訪れたあとには必ず何かアレルギー反応のような噴出する感覚があり、それに導かれて制作に向かうとい

います。今年度最後の展覧会では、この二人のアーティストが熊野の森から得たインスピレーションで展示室を満たしたいと思います。二人の表現が響きあう空間を、多くの方々に体感していただければと願っています。

(学芸員 山本 泰代)

美ー自由へのあこがれ 生誕110年記念 脇村禮次郎コレクション：7月19日(土)～9月23日(火・祝)

展示解説会
【日時】8月2日(土)14:00～15:30

田辺市出身の脇村禮次郎(1904～88)は、実業界の第一線で活躍するかたわら、文人画と抽象絵画を中心に美術作品を蒐集し、優れたコレクションを形成しました。氏の生誕110年となる本年、熊野古道なかへち美術館でその精選を紹介する展覧会を開催しました。会期中には、蒐集された作品への理解を深めていただくための展示解説会も行いました。展示の構成に沿って、「脇村禮次郎が身近において鑑賞していた作品」「故郷ゆかりの作家と、研究の中心にあった文人画」「素材からみる抽象画」「色と形からみる抽象画」の順に進行し、特に文人画の部門では画賛などについての熱心な質問もいただきました。

当日はあいにくの荒天で少人数での開催となりましたが、参加された方々には、脇村禮次郎コレクションに対する親しみを感じていただけたのではないかと思います。

(学芸員 山本 泰代)

記念講演会「脇村禮次郎の眼」
【日時】9月6日(土)14:00～16:00

「美ー自由へのあこがれ 生誕110年 脇村禮次郎コレクション」の開催を記念する講演会を、脇村禮次郎氏のご息女で、(公財)脇村奨学会の学芸員・司書を務められている脇村(白井)健子さんにお越しただいて開催しました。父親が好きだったものがふたつあり、それは故郷と美術であったという話に始まり、コレクションの形成については「人」がキーワードで、様々な人たちとの交流から作品が充実していったことを、数々のエピソードを交えて紹介されました。

文人画から抽象絵画に関心が広がっていった経緯や、両者の関係をどのように捉えていたか、作家との交流、とりわけ思い深い作品についてなど、身近で接してこられた方のみが知る事柄が次々に語られ、コレクションについての貴重な記録としても残されるべき、たいへん興味深い内容でした。

(学芸員 山本 泰代)

絵画と出会う「この一点!」

《南紀巡覧図》 作者不詳 紙本着色・巻子装 (公財)脇村奨学会蔵 ★折込の図版参照

熊野街道の景観が描かれた上下二巻の図巻で、上巻は伊勢国田丸城下より新宮を経て潮岬まで、下巻は本宮から中辺路を経て田辺、田辺から和歌山城下までは海沿いの道が描かれています。街道沿いの名所・旧跡やそこに住む人々の暮らしなどが詳細に記されており、所々に動植物の写生など本草学的な描写も見られます。巻末には□□□□の旧蔵を示す款記と蔵書印があります。ほぼ同じ系統で描かれた他の作品に和歌山県立博物館所蔵の《熊中奇観》があります。

上記の□□□□には著名な近世大坂の文人画家の名前が入りますが、お分かりでしょうか。ヒントは会場にあります!回答用紙を文人画コレクション展「図巻～巻物に景色を描く～」会期中に受付で配布しますので、ご応募ください。正解された方の中から抽選で3名様当館の文人画グッズセットをプレゼントいたします(解答は次号に掲載します)。

(主任 辰巳 充)

INFORMATION

★特別展

森に棲む 色・音・形

会場 / 熊野古道なかへち美術館
会期 / 平成27年1月24(土)～3月15日(日)
開館時間 / 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 / 毎週月曜日・2月12日(木)
主催 / 熊野古道なかへち美術館
観覧料 / 250円(200円) 学生及び18歳未満の方は無料 ※()内は20名様以上の団体割引料金です。

□会期中に美術館開放講座を予定しています。



コレクションの核となった文人画のコーナーの解説では、質問も集中しました。



展覧会の図録や貴重な写真などもお持ちただいて、コレクション形成の過程を詳らかにされました。

文人画コレクション展

図巻～巻物に景色を描く～

10月11日(土)

～11月21日(月・祝)